

1. 医学部教育

一般教育が制度的にも内容的にも全学教育と改められて2年、専門教育で六年一貫の新カリキュラムが導入されて4年目を迎え、平成7年度も前年度に続き、これらの制度・カリキュラムをその理念に基づいていかに実施するかが大きな課題であった。

A 全学教育への参画

全学教育は一般教育を全学部が協力して担当する全学協力方式で成り立っている。医学部は人間科学分野の担当部局の任を担うとともに、延べ129名の教官が人間科学分野を中心に29科目の授業を担当し（表1）、学部別担当コマ数と需給バランスでは7学部で最上位であった。（平成7年度長崎大学自己評価報告書、第3分冊、74-81頁）

B 新カリキュラムの学年進行

1～3年次生の授業は平成6年度と基本的に同じ時間割に従って行われ、新カリキュラムでの教育が定着している。4年次生の授業は新カリキュラムで初めてなされた。前期には疾患各論の脳・神経系、腎・泌尿器系、内分泌・代謝・栄養系、生殖系、運動系、小児系と診断学および外科治療学の講義実習が、後期の10月～12月には疾患各論の感覚系、皮膚・結合組織系、精神系の講義、内科、外科、精神神経科、麻酔科、臨床検査医学の総括講義および社会医学の授業が行われ、1月と2月にはリサーチセミナーが施行された。

新カリキュラムの1～4年生の授業では、従来の講座中心の縦割り教育ではなく、関連分野の教官で組織する系（教科）別の運営委員会で授業内容・方法・担当者等を検討し決定する方式が導入されている。この方式による教育は責任体制を含めて、運営委員会の在り方に依存することが極めて大きく、特に、疾患各論における臓器別の統合講義の成果はそれに左右されると指摘されていたが、各系で責任者（表2）を中心に綿密に授業計画が立てられ、それによって各担当教官が授業を進めたことで可成りの成果が得られている。

学生の科学的好奇心の喚起、科学的創造性の育成を図って導入されたりサーチセミナーが今年度初めて開設された。熱帯医学研究所の協力を得て基礎医学系講座・部門の教官が担当し、4年次生全員がそれぞれの研究テーマに意欲的に取り組んだ（表3）。今後その成果が学術論文等に発表されると期待される。

医学教育での最終コースである臨床実習が平成8年度5年次生から新カリキュラムに従って実施される。平成7年度はその具体的実施計画の最終的立案の年でもあった。臨床各科の実習担当者会議、教務委員会、六年一貫教育検討委員会で実習前に行うべき授業内容および時間数、旧カリキュラムで学ぶ6年次生の実習との重複等が検討され、平成8-9年度の臨床実習は5年次の6月から開始し、5年次前期に6週間、5年次後期に18週間、6年次前期に15週間の終日実習とすることとした。さらに、実習各科で実習の目標、日程、内容・方法、評価方法等が具体的に検討され、それらは「平成8-9年度臨床実習の手引き」としてまとめ、学生に配布することとし

た。

平成7年度の5、6年次生は旧カリキュラムに従って学んだ。カリキュラムの移行に伴っての担当授業の重複が主に臨床系教官にあったが、関係教官の協力によって支障は生じなかった。5年次12月の進級判定において進級が認められない者についての移行措置がそれ以前に検討されていた。結果的に2名がこの措置の適用を受けたがいずれも1年以内の留年となった。平成7年度の6年次在學生は120名で、そのうち正規卒業者は115名、卒業延期後卒業者4名、留年者1名で、正規卒業者の医師国家試験合格率は93%であった。

C 授業計画書（シラバス）の作成

新カリキュラムで学ぶ1～4年次生用の授業計画書を本学部として初めて作製し、学生に配布した。内容は年次・学期別の授業時間割、各授業科目（系）の担当責任者名、授業のねらい・内容・方法、テキスト・教材等、成績評価の方法等、および日別・時限別の授業項目等とした。

D 「学生への授業調査」の実施要項の制定

授業方法等の改善に役立てることを目的として、学生の意欲・態度、授業内容の理解度や教官の授業の進め方（方法）等について、学生の意見を聴取することとし、その実施要項を定め、これに従って、平成7年度後期から各授業科目（系）の責任者の責任で調査を実施することとした。

（平成7年度 医学部長 長瀧重信、教務委員長 毎田徹夫、学生委員長 兼松隆之）
（文責 毎田徹夫）

表1 平成7年度 医学部教官の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部教官

分野	授業科目	担 当 教 官
人間 科 学 分 野	人間学A	石丸忠之、野俣浩一郎、増崎英明、山下修史、松屋福蔵、山下隆則、安日一郎
	生体機能学A	岩堀修明、松田好弘、中根允文、雨宮次生、中島成人、澄川耕二、柴田尚武、安永暁生、大平明弘、岡崎祐士、上之郷眞木雄、徳永能治、北岡 隆、中村龍文、調 漸、城丸みさと
	健康科学A	田口 尚、宮本 勉、関根一郎、赤澤昭一、岡 三喜男、鈴木 伸、井沢邦英、山口義彦、寺本 司
	ハンディキャップA	中根允文、岩崎勝郎、雨宮次生、中島成人、藤井 徹、平野明喜、南 秀雄、平野 徹、北岡 隆、城丸みさと
	人間学B-1	辻 芳郎、神村直久、松坂哲應、福田雅文
	人間学B-2	中園一郎、久保真一、岸川正大、下川 功
	生体機能学B-1	相川忠臣、矢野捷介、松本逸郎、栗山一孝、早野元信、瀬戸信二、門田淳一、下田照文、山田恭暉
	生体機能学B-2	牧山和也、横山直方
	生体防御B	宮本 勉、矢野明彦、吉田彦太郎、江口勝美、鳥山 史、鶴殿雅子、田中洋一
	生体と薬B	谷山紘太郎、丹羽正美、長谷場純敬、片岡泰文、市川正孝、柴田 治、松山賢治、古賀宏延
基礎 自然 科学 分 野	健康科学B	兼松隆之、釘宮敏定、綾部公懿、富岡 勉、津田暢夫、田川 泰、草野裕幸、中越 亨、田中公朗、井沢邦英、福田俊夫、古井純一郎
	人類生態学B	竹本泰一郎、門司和彦
	化学A	矢島エイ子
	化学実験B	矢島エイ子
	細胞生物学B	山下俊一、難波裕幸、小路武彦、古川鋼一
	動物生理学B	相川忠臣、松田好弘
	生物化学A	近藤宇史
	応用生物科学B	佐藤 浩、岡市協生

分野	授業科目	担当教官
総合科目	平和講座	貞森直樹
	現代の生命像 1	齋藤 寛、小野賢爾、古川鋼一
	現代の生命像 2	宮本 勉、齋藤 泰、齋藤 寛
	繁栄と貧困	竹本泰一郎
	長崎の自然・社会・文化	三根真理子
	火山と災害	竹本泰一郎
	障害者と生活	南 秀雄
	放射線の光と影	林 邦昭、貞森直樹、高辻俊宏
一般情報処理科目	情報処理演習	和泉 喬、進 正志
健康コンディショニング科目	コンディショニング	岩崎勝郎、土井 豊、岡崎祐士、松山賢治、鈴木 伸、山口義彦、上平 憲
外国人留学生等のための特例科目	日本事情	矢野捷介、関根一郎、山下俊一、齋藤 泰、齋藤 寛

B. 全学教育関連委員会の医学部委員

委員会	委員
全学教育実施調整委員会	毎田徹夫 (教務委員長) 兼松隆之 (学生委員長) 相川忠臣 (人間科学分野専門委員会委員長)
分野・科目別専門委員会 ・人間科学分野 ・基礎自然科学分野 ・応用自然科学分野 ・総合科目 ・外国語関連科目 ・健康コンディショニング 科目 ・留学生用科目 ・一般情報処理科目	相川忠臣 田口 尚 丹羽正美 近藤宇史 齋藤 寛 新川詔夫 藤井 徹 中根一穂 和泉 喬

表2 平成7年度 1～4年次授業科目(系)責任者

学年	授業科目	責任者
1 年 次	医学入門	兼松隆之
	人間生物学	相川忠臣
	人体構造系 I	長島聖司
2 年 次	人体構造系 II	長島聖司
	神経・感覚器系	岩堀修明
	発生・組織系	中根一穂
	動物性機能系	松田好弘
	内臓機能・体液系	相川忠臣
	生体分子系	毎田徹夫
	環境因子系 I	奥村寛
3 年 次	病理系	田口尚
	感染症系	矢野明彦
	腫瘍系	古川鋼一
	免疫系	矢野明彦
	分子病態系	近藤宇史
	環境因子系 II	齋藤寛
	薬理学 I	谷山紘太郎
	薬理学 II	谷山紘太郎
	循環器系	矢野捷介
	呼吸器系	林邦昭
	消化器系	関根一郎
	血液・リンパ系	朝長万左男
	中毒・物理的要因系	竹本泰一郎

学年	授業科目	責任者
4 年 次	脳・神経系	中村龍文
	腎・泌尿器系	田口尚
	内分泌・代謝・栄養系	赤澤昭一
	生殖系	石丸忠之
	運動系	岩崎勝郎
	小児系	辻芳郎
	感覚系	雨宮次生
	皮膚・結合組織系	鳥山史
	精神系	岡崎祐士
	診断学	江口勝美
	外科治療学	兼松隆之
	社会医学 I	齋藤寛
	内科総括講義	江口勝美
	精神神経科総括講義	中根允文
	外科総括講義	兼松隆之
	麻酔科総括講義	澄川耕二
臨床検査医学総括講義	上平憲	
リサーチセミナー	中根一穂	

表3 平成7年度 リサーチセミナー 研究テーマ

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	岩堀修明	軟骨魚類の脊椎の構造	2
解剖学第二	長島聖司	上肢の解剖	2
	長島聖司	下肢の解剖	1
	長島聖司	上腹部の解剖	1
解剖学第三	中根一穂	ホルモン遺伝子の発現調節	2
	小路武彦	生殖細胞死の誘導機構	2
生理学第一	相川忠臣	一型アレルギーと副腎機能	2
生理学第二	小野憲爾	実験てんかんモデル(キンドリング)の成立機序	2
生化学	毎田徹夫	ミオシン重鎖の翻訳後修飾(メチル化)の筋腫依存性とその生物学的意義	1
	宮西隆幸	心筋収縮タンパク質(アクチン-ミオシン系)の試験管内再構築	1
	中山亨	反復配列をもつペプチドと合成DNAとの相互作用の生化学的解析	1
薬理学第一	丹羽正美 姫野明彦	画像化システムによる神経伝達物質受容体解析	2
	永山雄二	受容体蛋白の構造と機能	1
薬理学第二	谷山紘太郎	生理活性物質の受容体、細胞内情報伝達系の解析	3
	山下樹三裕	脳虚血による脳神経細胞障害の発現機構	2
病理学第一	下川功	下垂体前葉細胞の増殖と分化(加齢と長期カロリー制限の影響)	2
病理学第二	田口尚	糸球体腎炎の病理	2
細菌学	宮本勉	プリオン蛋白遺伝子欠損マウスの遺伝子検索(PCR法)と神経病態生理	1
	片峰茂	ヒトレトロウイルス(HTLVまたはHIV)の分子病態	2
衛生学	守山正樹	健康と身体障害に関する認識支援システムの開発	3
公衆衛生学	竹本泰一郎	地域保健医療に関する現地調査あるいは文献研究	1
	門司和彦		1
医動物学	矢野明彦	免疫応答のしくみの解析	2

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
法医学	中園一郎	長崎県内における異常死について	1
	久保真一	長崎県内における異常死について	1
腫瘍医学	古川鋼一	CD44バリエーション遺伝子の発現解析による癌の転移機構の解明	2
	古川圭子	suicide gene を用いた癌の遺伝子治療のための特異的プロモーターの検討	1
原研代謝	近藤宇史	アンチオキシダントの発現調節の研究 酵素タンパクと遺伝子の単離と構造解析 増殖因子による酵素の発現調節	2
原研放射	奥村寛 岡市協生	培養細胞の放射線感受性と放射線防護の意義	2
原研病理	関根一郎	炎症性腸疾患の病理	1
	伊東正博	消化管腫瘍における増殖因子と受容体の発現について	1
原研遺伝	新川詔夫	MSP 遺伝子の SSCP 解析	1
	陣野吉廣	一定領域からの CA repeats の単離	1
原研細胞	山下俊一 (大津留晶)	細胞の増殖と分化の分子機構の解明	3
	難波裕幸	細胞死と発癌の分子機構の解明	2
分子構造解析	五十嵐章	ヒトスジシマカ培養細胞(C6/36)におけるデング2型ウイルスの増殖に及ぼす培養温度の影響	2
	五十嵐章	組換えDNA法で発現された遺伝子産物を抗原とした日本脳炎とデング患者血清の抗体価測定	2
病原因子機能解析	平山壽哉	耐熱性下痢毒素系受容体の機能発現に関する分子生物学的アプローチ	1
	平山壽哉	ヘリコバクター・ピロリの病原性について(毒素およびIL-8誘導物質を中心に)	1
感染細胞修飾機構	上村春樹	トリパノソーマ原虫のトランスシアリダーゼ	2
	中澤秀介	熱帯熱マラリア原虫の培養とその応用	1
	神原廣二	クルーズトリパノソーマ分離株間の感染臓器特異性	1
寄生行動制御	青木克己	寄生虫の侵入・遊泳行動解析	2
	藤巻康教	アフリカ伝統薬からの駆虫剤の選択	1
	三井義則	抗糸状虫剤の動力学	1

教室名	指導教官	研 究 テ ー マ	受 講 学生数
炎症細胞機構	中 村 三千男	Bリンパ球における活性酸素 食細胞先天異常の解析	2
	熊 取 厚 志 鈴 木 章 一	食細胞特異的遺伝子発現	2
病変発現機序	板 倉 英 吾	主な熱帯病の病理組織像	2
	鳥 山 寛	肝生検組織標本による各種肝疾患の病理組織像	3
社 会 環 境	溝 田 勉	発展途上国の医療社会学	2
疾 病 生 態	小 坂 光 男	暑熱順化と体温調節	
	土 屋 勝 彦	(1) 温度順化とラットの生長	1
	大 渡 伸	(2) 動物の暑熱・寒冷耐性	1
	松 本 孝 朗	(3) 水泳時の体温・循環調節	1